

サモア国立大学と長野県看護大学の
短期学生交換留学協定に基づく

2016（平成28）年度

国際看護実習

〈渡航年〉

報告書



初めての地で互いに助け合い、たくさんの人々に支えられた
この想いを忘れない・・・

サモア大使館



JICAサモア支所



サモア国立病院



ラロマヌ病院



ラロマヌ病院での最終カンファレンス



ラロマヌでの夕食時にサモアンダンスを見ることができました。



助産師リウさんと一緒に



訪問看護で見られた村落地方の家族の様子







白い服でそろえて
日曜日は教会へ行きました。



初めて参加したミサ！
何が行われているの
かもどんな歌なのかも
わからない…



教会の後は、ツアシビ病院の
スタッフが昼食を用意してくださ
いました。たくさん！



おいしいウム料理をありがとう!!
明日は病院で会いましょう！



サバイイ島ツアシビ病院での実習



ヘンリーさんはウボル島まで私たちを
送って下さいました。
充実した3日間をありがとう！



エセタ前学部長のお墓参りに訪問し
ご家族にお会いしました。



エセタ前学部長ご家族と一緒に
食事をしました。



成果報告会当日の朝。NUSに出発する直前までみんなで練習しました。



発表本番。緊張しながらも、練習の成果が発揮できたかな？



真剣な表情で聞いてくれました。



NUS前々学部長のFulisia先生の墓前にて。



ウム料理は熱い石の中で食材を蒸し焼きにして作ります。



ウム料理はサモアの伝統的な料理。とてもおいしかったです



NUS主催の食事会にお招きいただきました。



沢山の人と出会い、多くのことを学んだサモアでの日々。また会おうね！

やるべきことはやり、やりたいこともやった！この実習の学びをどう活かす？

基礎看護学講座「国際看護実習」科目担当 宮越幸代

本年度のサモア国立大学と本学の大学間交流協定に基づく学生交流事業と国際看護実習は、4名の履修生と教員2名の参加によりサモアで実施されました。学生3名が初めての海外体験でしたが、未知のことに果敢に挑戦する姿に教員も奮起させられ、今年も無事に実習を終了することができました。渡航年度にこのような報告書を編集したり、鈴風祭で成果報告会をしたのは、初めてとなりました。

今年度は本当残念なことに、今まで両校の絆の「要」として尽力くださったエセタ・ホープ応用科学学部長およびフリシア・アイアバオ前学部長のご逝去という2つの悲報に接しました。実習では、大きな悲しみとともに、これまでの実習の受入整備を進めてくださった大きな存在の喪失を痛感せざるを得ない実態にも遭遇しました。現地との意思疎通もこれまで通りとはいかないままに出発しましたので、現地では真っ先に日程の再調整が必要となり、予定していた重要なスケジュールを一部変更することになりました。NUSから急遽提案され、少々戸惑う企画もありましたが、要するにそれこそが異文化での学び、次には何が起こるかなと期待するくらいの余裕を持てばよいのだと思うようにしました。綿密に予定しても何が起こるかはわからない、そしてサモアに行ったらサモアの人たちに従うべき。「ここはサモア」なのです。エセタ先生やフリシア先生は何度か日本を訪ね、日本の時間厳守・約束厳守の文化—それを崩されることに対する日本人の戸惑いを含めて—をよくご存知であつたのだな、とこれまでのご配慮への感謝の念を新たにしています。

ところで、サモアでの臨地実習は都会でも地方でも、知り合いの看護職が各地で the most welcome で受け入れて下さいます。そのほかにもサモアは自然が美しく、伝統的な慣習や文化を興味深く楽しめる国です。とはいえ、実習期間も予算も限られています。しかも、NUSからいつどのような提案が来るかはわからない・・・科目担当としては「体験できれば理想的だけど、体力や安全面を考えると、あまり無理はさせたくない」と言うのが本音です。しかし、学生たちは徐々に不意な予定変更にも動揺しなくなり、自分たちに任された意思決定や作業・記録提出の細やかな期限を厳守し、捻出した時間でサモアの伝統や文化を楽しみ、現地の友達をつくるまでに至りました。帰国前には、日焼けした肌に黒い髪、黒い瞳、ビビットな伝統的衣装とハイビスカスの髪飾りが似合う、素敵な「モアナ」が4人（6人？）も誕生していました。

しかし、いつまでもヒロイン気分で浮かれてはいられません。帰国した後、すぐに取り組むべきは報告会と領域実習の準備です。自ら履修を決めた実習機会を存分に楽しみ、やるべきことはやり、やりたいこともやる！と行動できた成果は、その後、学生たちの学生生活にどう還元されているのでしょうか。どうか皆様、学生のその後の学習の発展を見守り、必要なお支援を賜りますようお願い申し上げます。サモアに大きな忘れ物をしてきてしまった、ということはないのでしょうか？

今年度の履修生は、今までの12年間の既卒実習生、前任そしてNUSとの良好な関係に尽力くださった先生方、このたびの実習を見守って下さった本学の教職員のすべてを代表し、サモア現地のエセタ先生そしてフリシア先生のご自宅へ墓参致しました。先輩から受け継がれた絆を次々とつないで下さる履修生を、科目担当として今後も全力で応援いたします。今年も国際看護実習の実施にご理解とご協力をいただきまして、大変ありがとうございました。

平成29年3月31日



NUS 学長に寄贈した「2014年国際看護実習（渡航年）」の最終日の写真
（前から2列目中心がエセタ学部長）

サモア国立大学と長野県看護大学の短期学生交流留学協定に基づく

2016(平成28)年度 国際看護実習報告書

目次

◎ 2016(平成28)年度 国際看護実習(サモア渡航年)実習概要	1
◎ 2016(平成28)年度 国際看護実習 本学履修生による自己紹介	2
◎ 臨地実習①「ラロマヌ病院」	3
◎ 臨地実習②「ツアシビ病院」	4
◎ 実習時間外での出来事	5-6
◎ NUS(サモア国立大学)での日本文化紹介・成果報告会およびプレゼンテーション資料	7-14
“JAPANESE TOWELS” 熊谷里奈 塚田佳奈子	
“HINAMATSURI” 谷口夏美 丸谷由紀	
“FAMILY PLANNING” 熊谷里奈 塚田佳奈子 谷口夏美 丸谷由紀	
◎ 国際看護実習で学んだこと(実習記録から抜粋)	15-16
◎ 元留学生ヘンリー氏、ノアさん、アモさんからの学びと彼らの現在	17
◎ 元留学生の今の活躍	18
◎ 「鈴風祭」での報告会および参加者からの声	19-20
◎ エセタ・ホープ先生(前サモア国立大学看護学部 学部長)追悼記	21-22
◎ 国際看護実習を終えて「今、思うこと」	23
◎ 2016(平成28)年度 国際看護実習 参考資料	24-26
本学学報掲載記事	
本学ホームページ掲載写真	
◎ サモア国立大学および長野県看護大学における	
交流事業学生短期交換留学「国際看護実習」概要	27



2016（平成28）年度 国際看護実習（サモア渡航年）実習概要

1. 実習目的

異文化背景を持つ対象への看護ケアの提供や、異文化背景を持つ看護者との協働を通して、サモアの社会システムや文化背景、看護について日本との違いを対比し、国内外で国際看護を実践するための基本となる姿勢および考え方を身につける。

2. 実習目標

- 1) サモアの病院において看護師が実践する活動を「プライマリ・ヘルス・ケアの活動項目と原則」や「ミレニアム開発目標」の各ターゲットにあてはめて、具体的に説明できる。
- 2) 実習で視察したり、体験した活動をもとに、サモアの看護師や医療関連の職種の方々と協働する場面を想定し、異なる文化的な背景を持つ看護職者同士がよりよく協働するための条件と方法について、考えたことを説明できる。
- 3) 実習全体を通して理解したことを振り返り、サモアの文化や社会システムがどのように国民の健康に影響を及ぼし何が看護上の課題となっているのか、日本との違いから考察し、具体的に説明できる。
- 4) 日本の文化や医療、サモア現地で学んだことを英語で表現するプレゼンテーションを作成し、その実施状況や対象の反応から、自分が表現する内容への理解および表現方法について客観的に評価できる。
- 5) 実習目的および各自が事前に設定した実習目標への各自の取り組みや達成状況を振り返り、自分に身に付いた力と今後、自分に必要な努力と支援について客観的に考察できる。
- 6) この実習の経験を自分の将来的な人生や職業的なキャリアにおいて活かす方法について、自分の考えを整理し、説明できる。

3. 履修生（合計4名）

熊谷 里奈（くまがい りな）谷口 夏美（たにぐち なつみ）塚田 佳奈子（つかだ かなこ）丸谷 由紀（まるたに ゆき）

4. 実習スケジュール

日数	日程	行動	宿泊
0	8/1（月）	7月31日（日）18:30 成田空港出発→NZ 乗継→20:25 アピア（サモア）到着	アピア市内民宿 2泊
1	8/2（火）	10:00 在サモア日本大使館・JICA サモア支所・サモア国立大学表 午後：国立病院および National Health Services (NHS)訪問、	
2	8/3（水）	7:00 出発（村落地方に移動：ラロマヌ病院） 11:00 到着・実習①日目オリエンテーション・看護活動視察 等 17:00～19:00 民宿チェックイン、カンファレンス・実習準備	ラロマヌ病院近く の地方民宿 2泊
3	8/4（木）	9:00～14:00 実習②日目 17:00～19:00 カンファレンス・記録	
4	8/5（金）	9:00～14:00 実習③日目 15:00～17:00 アピアに移動、カンファレンス・NUS 企画参加	アピア市内民宿 1泊
5	8/6（土）	6:00：サバイイ島への移動（フェリー乗船）* 10:00～現地打ち合わせ	サバイイ島民宿 2泊
6	8/7（日）	午前：教会ミサ・ランチミーティング 午後：実習準備	
7	8/8（月）	午前：Tuasivi 病院視察、Integrated Community Health Nursing Services(ICHNS) Team の活動に参加、視察等* 16:00：アピアへの移動（フェリー乗船）	アピア市内民宿 4泊
8	8/9（火）	午前：カンファレンス・記録 午後：実習成果報告会準備	
9	8/10（水）	午前：実習成果報告会準備 午後：同上 エセタ前学部長宅訪問・墓参（夕食）	
10	8/11（木）	午前：実習成果報告会準備（リハーサル） 午後：NCN 学生による日本文化紹介・実習成果報告会実施	
11	8/12（金）	自由時間、在サモア日本大使館・JICA サモア支所御礼報告訪問 午後：出国準備 18:00 空港へ移動 21:25 アピア空港発 NZ997	*12日（土）は夜間出 発のため乗継まで2泊
12	8/13（土）	→00:35 オークランド到着（フライト4h10m） 実習のまとめ → 8月14日（日）16:50 成田空港着	
13	8/14（日）	08:45 オークランド発 NZ099→16:50 成田到着（11h05m）⇒駒ヶ根へ	

the International Nursing Practicum of 2016

We are going to visit Samoa!!!



Talofa! I'm Rina ^o^ I'm the shortest in this member.
I want to meet you soon and then please teach me fa'asamoa!
I'm looking forward to wearing lavalava with everyone.



Hello, everyone! My name is natsumi. Please call me natsu!
"natsu" means summer, and "mi" means beauty. So, I'm beautiful in summer!
I like to look out at the sea. I hear Samoa sea is emerald green and beautiful!
I'm looking forward to look out the sea of Samoa, and meet everyone!!



Hi! I'm Kanako. This time, I want to learn a lot of things in Samoa.
And I'm looking forward to seeing everyone.



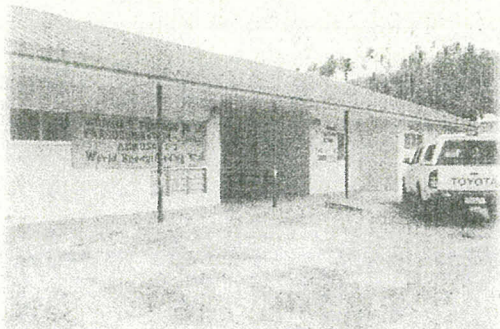
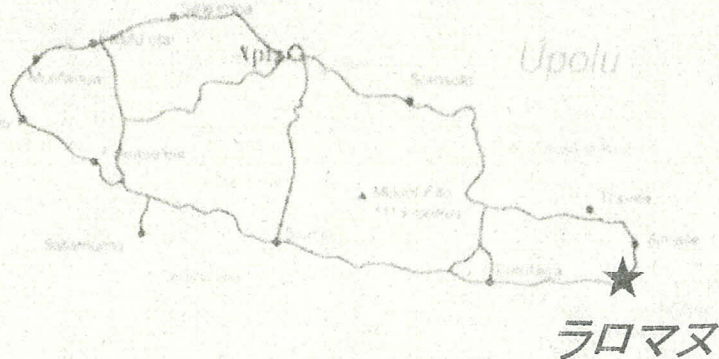
Hello! I'm Yuki Marutani. I like to eat and I'm interested in
food-culture in Samoa. I can't wait to see you guys!

Draft schedule in August

- 1st Mon.** Arrive in Apia airport at 20:25 (NZ997)
- 2nd** Pay a courtesy call **NUS**, Meeting and Confirming practicum schedule, Meet with practicum members (**NUS** and **NCN**)
- 3rd-11st** **Let's plan!** Pending schedule: Depend on arrangement by **NUS** and **NCN**
Feedback Presentation about this practicum
- 12nd Fri.** Leave for Apia airport at 21:25 (NZ099)

ラロマヌ病院実習

実習3日目～4日目の2日間、サモアの村落地方にあるラロマヌ病院で実習を行いました。ラロマヌ病院では、病院周辺に暮らす約9000人を対象としています。医師は首都アピアから週に1度ラロマヌ病院へ来ます。



1日目は、主に病院見学を行い、リマ看護師長から地域におけるラロマヌ病院の機能についてお話を聞いたり、外来での業務の様子やカルテなどを見させてもらいました。一般的にサモアにおける看護師の医行為の実施範囲の実際は、日本と比べて医師に近いです。こういった背景が、看護師一人ひとりに求められる業務の多さに繋がっていると考えられます。実際、ラロマヌ病院では、看護師が外来での傷の処置から、薬剤の管理や記録・発注、在宅への訪問、病院の清掃までを行っているそうです。



2日目は、病院見学の後管轄地区内の往診へ行きました。この日はリウ助産師が都市部から来ており、リウ助産師からもお話を伺うことができました。また病院見学では、この時期にちょうど設置されたオートクレーブを見せてくださいました。水道水は水質の関係で利用できないためオートクレーブに使われる水は都市から運び込む必要がありますが、以前は使用済の物品自体を都市まで運び滅菌していたため、このオートクレーブの導入にリマ看護師長はとても嬉しそうでした。



往診先では水道水は使用できず海水を使って傷の処置をすることも!!

私たちもリマ看護師長の訪問看護に同行しお手伝いをしてきました!



日本では創傷の処置は湿潤療法が一般的ですが、ラロマヌ病院の看護師は在宅訪問に同行させてもらった時に、クロルヘキシジンという消毒液で傷を洗浄した後、生理食塩水に浸したガーゼを当て、包帯を巻くという乾燥療法が用いられていました。しかしこの方法だと、時間が経つにつれ傷口が乾燥するため、包帯を交換する頃には、ガーゼは傷口にくっついてしまいます。それを取るために、看護師は患者とその家族に、傷口を海水に浸し、ガーゼをはがしやすくするように指導していました。また傷口に密着したガーゼを取るのに、海水とともにバブルも用いているようでした。

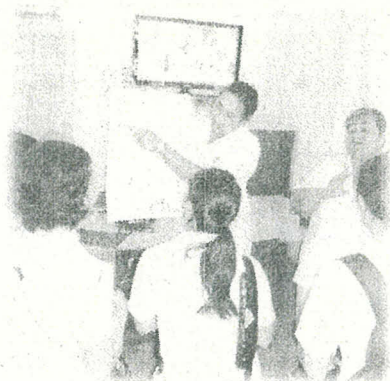
これらはサモアの限られた資源、コスト負担の面で住民自身が利用しうる範囲の技術であり、地域資源の有効活用でもあると考えられます。

ツアシビ病院実習

実習8日目にはサバイイ島でのメイン病院である、ツアシビ病院で実習を行いました。緊急救命室や検査室などがあり、サバイイ島内で唯一医師が常勤している病院です。



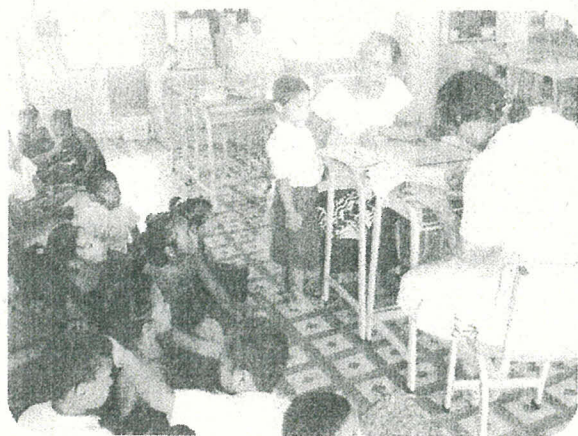
母子保健



婦人科病棟では助産師のラガさんとロゴさん親子からサモアでのファミリープランについてお話を聞きました。サモアにおけるファミリープランの目的は、個人やカップルが子供を産む間隔やタイミングを調整するためのものです。ファミリープランにはNHSが定めたガイドラインがあるようです。このお話を聞いて私たちは、日本での避妊方法の選択の違いやファミリープランの背景についても考える機会を持つことができました。また、伝統的産婆(TBA)と病院の連携についても聞くことができました。病院で出生しなかった子供でも、TBAからの連絡により出生が登録されることがわかりました。

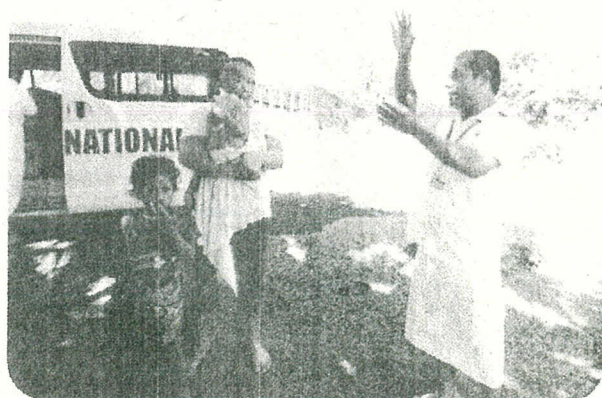
小学校でのワクチン接種と訪問看護

ワクチン未接種の子供をカルテから探し、学校訪問により接種していきます。学校との打ち合わせもなしにいきなりの注射訪問でしたが子供たちは怖がることなく、名前を呼ばれたら元気に返事をして予防接種を受けていました。注射部位をアルコール消毒をせずにいきなり注射し、乾いた綿で刺入部位を抑えていました。自分たちが学校で習った注射の手順とは違うところもありました。日本とは異なる物資の利用の仕方や保有物資の状況を考えることができました。



左の写真の親子はツアシビ病院での訪問看護移動中に見つけました。母子手帳を所持しておりその記録を見て、まだ未接種のワクチンをその場で接種しました。子供の成長の様子も確認しました。予防接種の呼びかけは行われているものの、未接種となってしまう子供も少なくないようです。

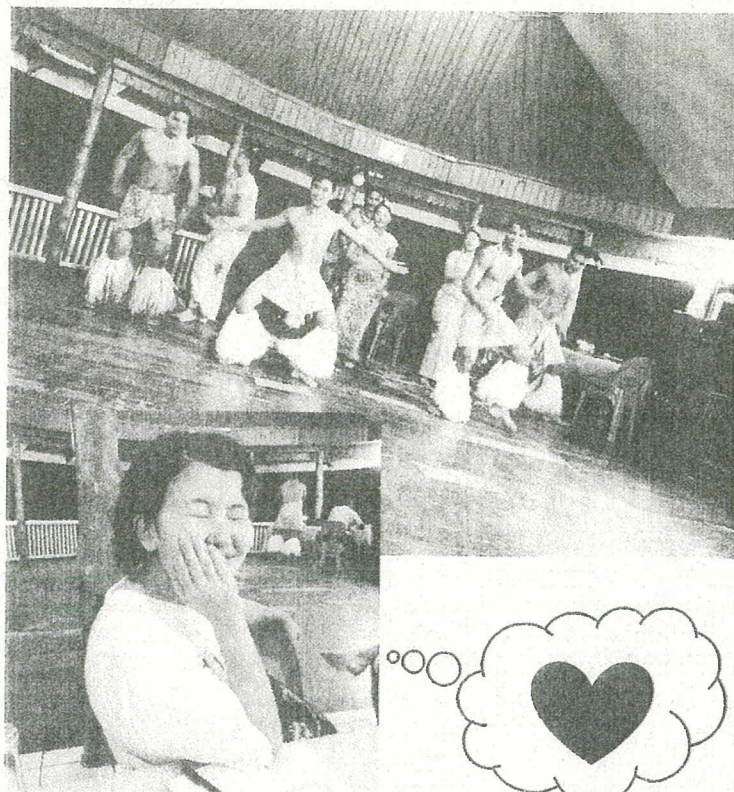
サモアの母子手帳には妊娠期のことを書く欄が無く、出生後の子どものことを書く欄から始まっています。ここでも日本との違いを感じることができました。



実習外エピソード

ウポル島編

サモアにいる間、幸運にもサモアンダンスのショーを見ることができました。楽しい南国の音楽とリズムに乗って若い男性と女性がサモアの伝統的なダンスを披露してくれました。その中で火のついた木の棒を激しく操るファイヤーダンスを見ることができました。とてもスリルがあってハラハラして楽しかったです。そこには私たち日本人の他にイタリアや、ニュージーランド、オーストラリア等から来たたくさんの外国人観光客もいました。彼らと一緒に夕食を食べてショーをみながらたくさんのコミュニケーションをとって楽しむこともできました。ファイヤーダンスが終わると、ダンサーも客もみんな一緒にサモアのダンスを踊り、サモアの文化を経験して楽しむことができました。



NUSの学生と



入国直後から一緒だったみんなとは、出国直前まで一緒でした。病院実習等へ一緒に行くことはなかったけれど、私たちにとって大きな存在です。



NUSでのプレゼンテーションの後、街へ買い物へ行くと彼らに会いました。私たちのプレゼンを聞いてくれていたNUSの学生です。

NUS看護学生とのダンス



NUSから看護学部へのダンスパーティーに招待されました。卒業生も参加しており、この会場で前年度留学生のノアさんとアモさんにも会うことができました。普段踊る習慣がない私たちにとって、ダンスは難しかった…



そしてこの箱↑自分が気に入ったチームのダンスに対し出資します。発表チームが変わるごとにこの箱は空になって出されます。これも初めての経験でした。

会場内でタロイもチップスの歩き売りがありました。初めてここで食べた！

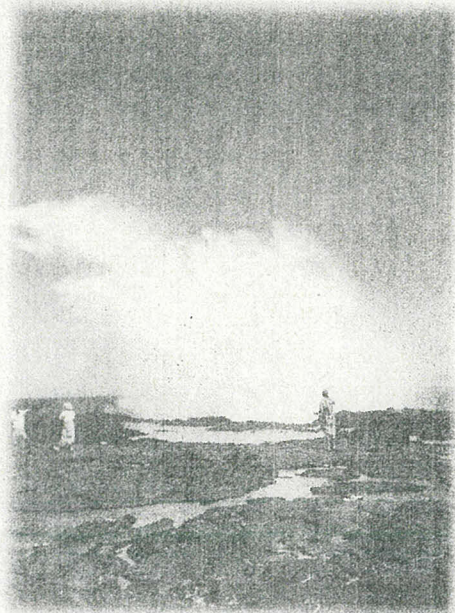
実習外エピソード

サバイイ島編

実習6日目にはフェリーに乗りサバイイ島へ移動しました。サバイイ島はサモアの首都アピアのあるウポル島からはフェリーで約1時間かかり、美しい海や山などの自然に囲まれた島です。本学へ交換留学で来学経験もあるヘンリーさんがサバイイ島の様々な場所へ案内をしてくれました。中でも印象に残っているのは、アロファアガの潮吹き穴(Aloffaaga Blowholes)です。島の南側ほぼ中央にあるタガの海岸で見られる、世界的に知られている自然現象で、黒い溶岩で被われた海岸の、波に浸食された穴に打ち寄せる大波が、岩の隙間から空に向かって数10メートルの豪快な水柱を立てます。その迫力は圧倒的で、雄大な自然の美しさにとても心を奪われました。ヘンリーさんがその場で割ってくれたココナッツジュースを飲みながら見るその景色もまた特別なものでした。

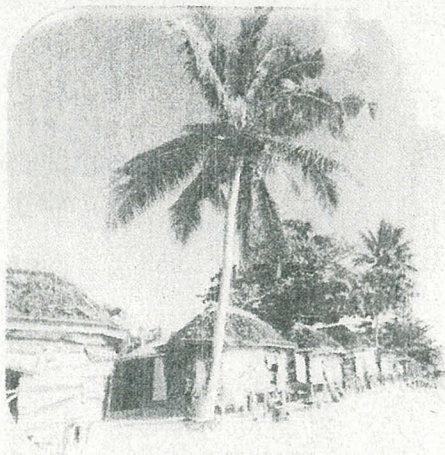


サモアに来て
ここで1個目の
ココナッツ!!



ヘンリーさん、
サバイイ島での
ツアーありがとう!!

スゴイネっ!!



サバイイ島ではサモアの伝統的な建物であるファレに宿泊しました。海岸部に設置された高床式のビーチファレでした。収容人数は2人と、小さなファレに宿泊しました。ファレはすべてヤシの木やヤシの葉でつくられています。窓や扉はありません。自然の風が気持ちよく流れていきます。波と風の音を聞きながら自然と一体になってぐっすりと眠ることができました。海を間近に感じながら生活するのは初めての経験でした。

7日目には天候に恵まれたため、海に入ることができました。海はエメラルドグリーンをしていて、水中眼鏡を付けて潜ると浅瀬でもたくさんの魚が泳いでいました。ナマコもたくさんいました。波に揺られてプカプカしているのがとても気持ちよかったです。海岸にはたくさんの貝殻やサンゴが落ちていて時間を忘れて拾い続けていました。気づけば空が赤くなっていて夕焼けに照らされる海はとてもきれいでなんとなく寂しげでした。



NUS成果報告会

日時 8月11日(木) 12:00頃から

場所 NUS学内のビッグファレ(サモアの伝統的な建物)

内容 ①日本文化のプレゼンテーション

・ JAPANESE TOWELS

—熊谷里奈・塚田佳奈子

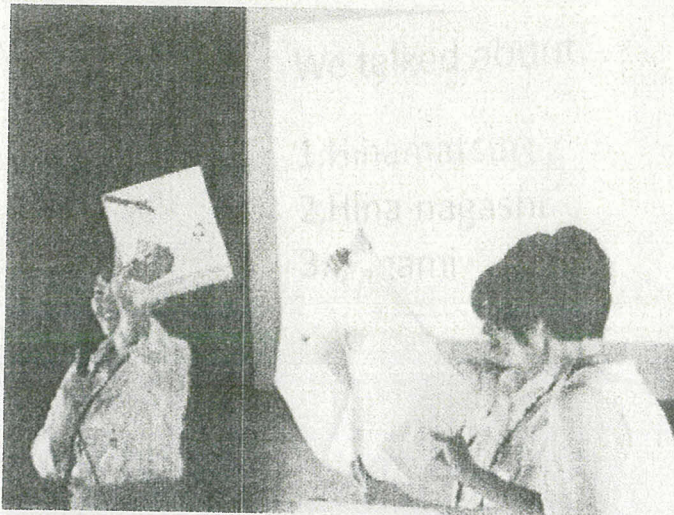
・ HINAMATURI

—谷口夏美・丸谷由紀

②成果報告プレゼンテーション

・ FAMILY PLANNING

—熊谷・谷口・塚田・丸谷

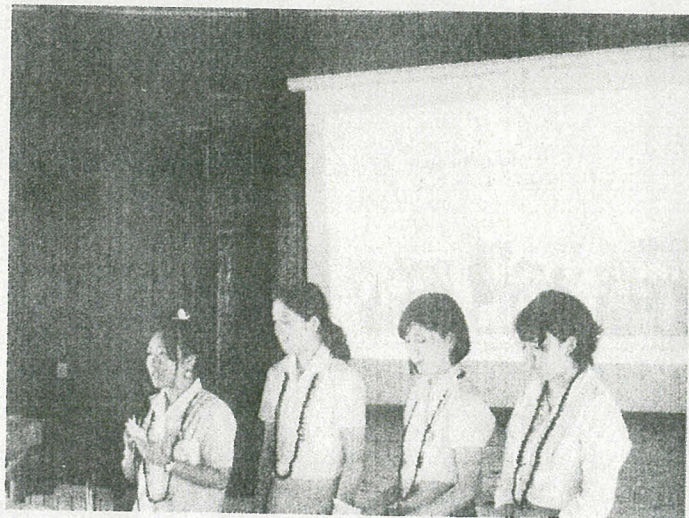


成果報告では「family planning(家族計画)」について発表しました。サモアでは出生率が高いけれど、出産の間隔が短いことが問題としてあります。これをコントロールする方法の一つに避妊があります。日本ではコンドームを使用することが主流ですが、サモアではデポプロベラという注射を用いることが主流です。その理由として長期間病院に来る必要がないこと、薬(ピル)の飲み忘れがないこと、男性からの避妊の協力が得られにくいということが挙げられることを発表しました。発表後、NUSの先生方からよい発表だったと感想をいただき、学んだこと、そこから考えたこと正しく理解できたと感じました。

当日はNUSの学生と先生方の約80人が成果報告会に来てくれました。

「JAPANESE TOWELS」では、手ぬぐいとおしぼりについて種類と用途が豊富であることを紹介しました。NUSの学生はカラフルな手ぬぐいの画像を見て、きれいだと喜んでいました。また、NUSの先生におしぼりをプレゼントすると早速、その後の昼食前に使用していました。


「HINAMATURI」では、ひな祭りの概要、これ由来のひな流し、さらに折り紙でひな飾りが作れるという紹介をしました。NCNの学生の説明とともに折り紙もしました。NUSの学生は途中、混乱して折る手が止まっていました。改めて、英語で説明する難しさを実感しました。



発表後にNUSの皆さんから歌やダンス、さらにこの写真のように一人ひとりにラバラバのプレゼントをいただきました。たくさんの心尽くしに感謝の気持ちでいっぱいでした。プレゼンを聞いてくれた学生たちは私たちと同じ、看護職を目指して勉強をしています。サモアと日本、遠く離れているけれど志は同じです。お互いどのような医療者になるのでしょうか。

* 家族計画: 家族にとって最も適当な数の子どもを、最も適当な時期、間隔で出産するように妊娠、分娩に計画性を持たせること

FEEDBACK PRESENTATION



International Nursing Practicum 2016
Nagano College of Nursing

Rina
Natsumi
Kanao
Yuki

Our Schedule

- 2nd National Hospital
National Health Service
- 3rd-4th Lalomanu Hospital
- 8th Tuasivi Hospital



National Hospital



Lalomanu Hospital



Tuasivi Hospital

WE LEARNED ABOUT

FAMILY PLANNING

EPI

Maternal and CHILD HEALTH

TREATMENT USING NATURAL RESAUCE

The family planning

- ✓ The findings
- ✓ Considerations
- ✓ Conclusion

The findings in Samoa

- Family planning for preventing pregnancy

The difference of;

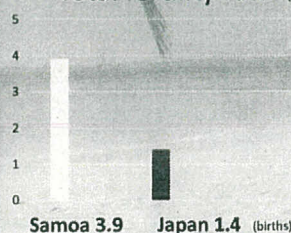
- ✓ family planning
- ✓ methods for birth control



Consideration

① Difference of background

Total fertility rate (2010)



Crude birth rate (/1000 population) (2010)



Mother and father
have to work.

Woman's first
childbirth is
late.

The reason of the number of
children decline in Japan.

High cost to bring
up children.

Couples have to find out
place where somebody take
care of their children.

Consideration

① Difference of background

In Samoa
women are able to have many children

↓
Their family take care of children

Good environment for children's development

But...

The problem is...

Mother give birth short period.



Family Planning in Samoa is to protect the
women and control the birth.

Consideration

② Difference of method

〈the reason of using Depo-provera〉

- 1.No need to go hospital for long span.
- 2.No need to worry about forget taking drug.
- 3.Hard to get acceptance of birth control from male.

Thank you for ...

NUS: Ms.Tala, Ms.Vipula, Ms.Ma'a, Ms.Fuatai,
Ms.Alo, Ms.Kalala

NHS: Ms.Avaia(Upolu), Ms.Tapuni(Savaii)

Lalomanu Hospital: Ms.Lima, Mr.Liu

Tuasivi Hospital: Mr.Tashi

Ms.Oa, Ms.Laga

Mr.Henry

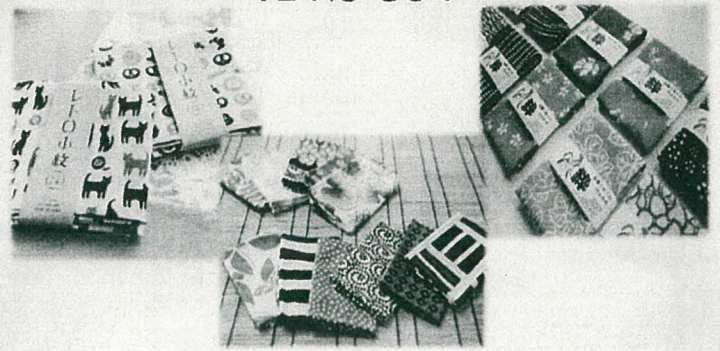
Ms.Logo



TE NU GU I

JAPANESE TOWELS

Rina Kumagai 熊谷 里奈
Kanao Tsukada 塚田 佳奈子



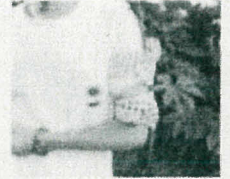
For example...



In addition ...



Fashionable items



Instead of bandage

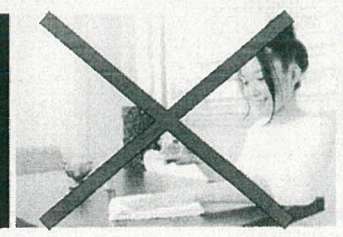
おしぼり
o shi bo ri

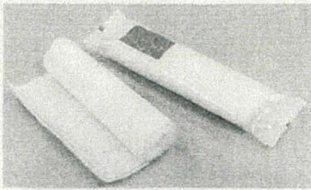


In a restaurant...

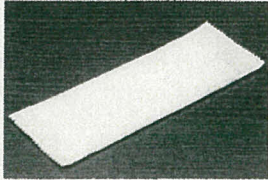


How to use oshibori





! The Paper type !



The cloth type



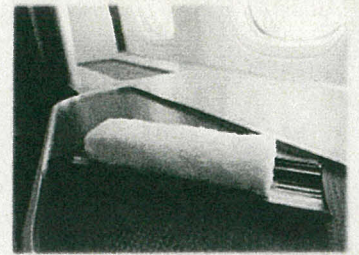
The portable type



In a nursing facility



On an airplane



Today's Topic

TENUGUI

OSHIBORI

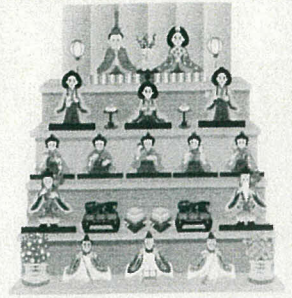


CONVENIENT TOWELS!!

Fa'afetai atu mo le fa'alogo

Japanese Festival
Hinamatsuri

Yuki Marutani
Natsumi Taniguchi

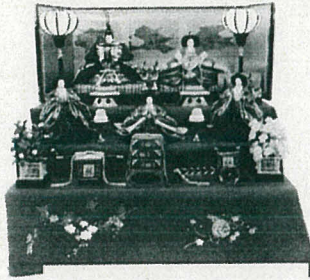


Hiamatsuri =
The Girl's Day
or
The Festival of Dolls

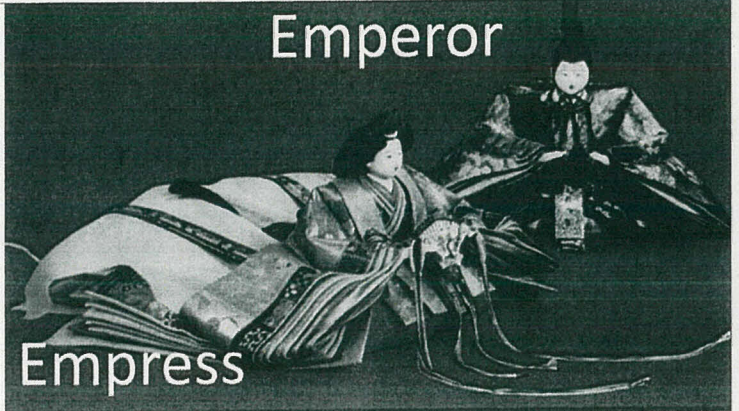
Tier of 7



Tier of 3

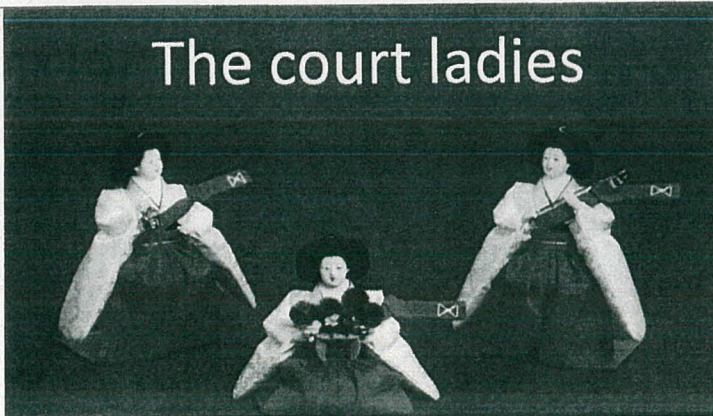


Emperor



Empress

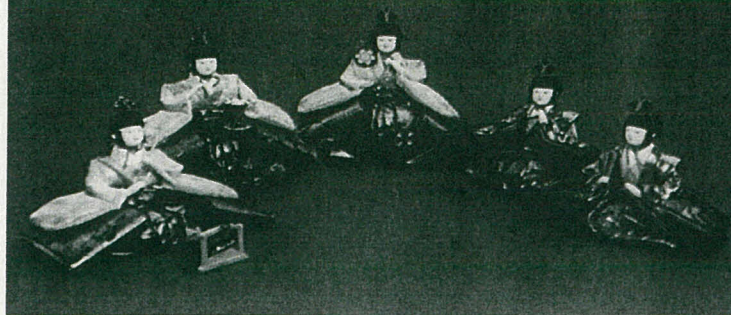
The court ladies



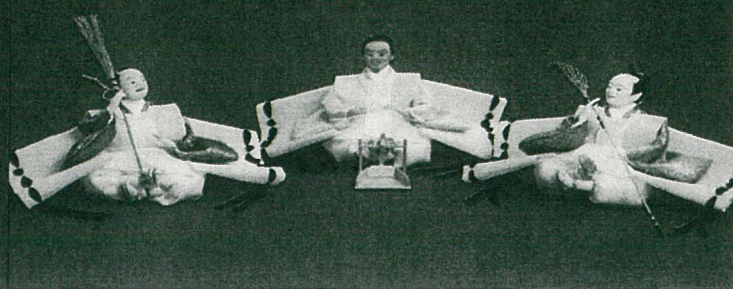
The ministers



The court musicians



The servants



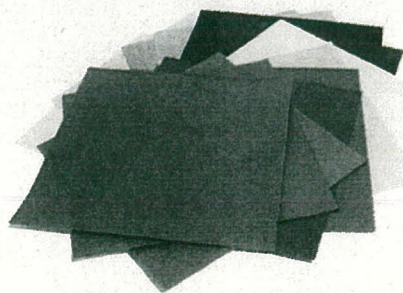
Hinamatsuri traces its origins to an ancient Japanese custom called hinanagashi



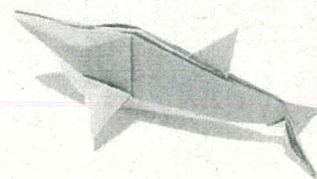
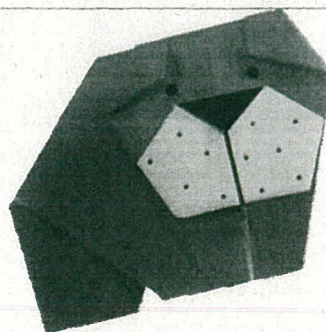
Hina-nagashi



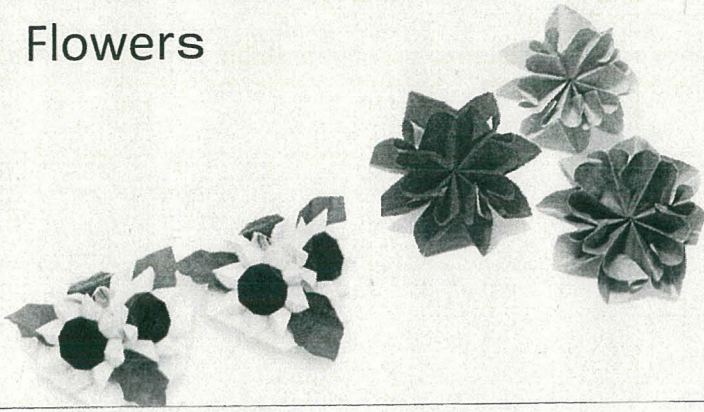
Origami



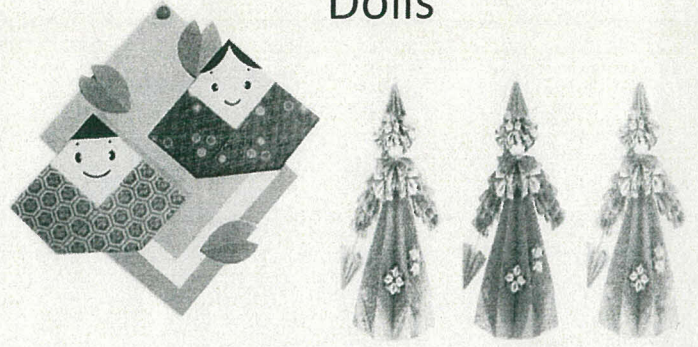
Animals



Flowers



Dolls



We talked about...

- 1.Hinamatsuri
- 2.Hina-nagashi
- 3.Origami

国際看護実習で学んだこと

サモアでの実習で何を考え、何を学びとし、課題をどう捉えたのか？抜粋して紹介させていただきます。

【サモアの看護技術・看護ケアから考えたこと】

- 日本では創傷の処置は湿潤療法が一般的であるが、サモアでは消毒液で傷を洗浄した後、生理食塩水に浸したガーゼを当て、包帯を巻くという乾燥療法が用いられていた。しかしこの方法だと、時間が経つにつれ傷口が乾燥するため、包帯を交換する頃には、ガーゼは傷口にくっついてしまう。それを取るために、看護師は患者とその家族に、傷口を海水に浸し、ガーゼをはがしやすくするように指導していた。また傷口に密着したガーゼを取るのに、海水とともにバブルも用いていた。これらはサモアの限られた資源、コスト負担の面で住民自身が利用しうる範囲の技術であり、地域資源の有効活用でもあったと考えられる。しかし海水の塩分濃度は3.1%から3.8%、ヒト生体の塩分濃度は約0.9%であり、海水の塩分濃度は生体よりもかなり高い。よって海水を創傷の処置に用いるのは適切性という面で欠如していると考えられる。また注射の針はバイオハザードの箱へ処分されるが、看護師がリキャップをしてから捨てている場面も見られた。
- このように異なる文化的背景を持つ看護職が共同する際の対処として、言語の違いに関しては、お互いに理解しよう、伝えようと努力することが大切であると考えられる。ある程度の互いの言語を理解することも重要である。その上で理解できないことや疑問はすぐに質問すること、質問をしやすい雰囲気や環境をつくるのが大切である。
- 医療技術に関しては、私が知っている日本の処置の方法を押し付けるのではなく、サモアの看護師がやっている方法を学び、その原理も考える。またサモアの国の使える資源、コスト、宗教や伝統といった文化も考慮して、技術水準の向上を図ることのできる技術であると考えられる場合には、海水でガーゼを剥がすのではなく、サモアの人々に身近であるココナツオイルを用いて乾燥を防ぐことを提案する。その際になぜそれが必要なのかを説明し、納得すること・受け入れられるまで時間が掛かることも考慮する。さらにお互いが看護専門職として尊重しあうことが重要である。 (履修生A)
- 実習前に自分が強く知りたかったことは、サモアの自然がどのような時に何が使われているかということだった。在宅看護のニーズが高まっている日本の医療だが、すべての人が発展した医療方法・機器の利用を求めるのかということに疑問を感じた。大学の講義や学祭の催し物としてアロマセラピーに触れる機会があり、アロマの素は植物であるということやアロマセラピーやハーブが医療現場で用いられる場面があるということを知ったため、また自分の家族は桃の葉を用いて汗疹をひかせることがあったからである。実際に行ったことはないが聞いたことがあるという民間療法もいくつかある。実際にサモアではいくつかの植物が用いられていることが分かった。サモアで何人かに同じような質問をしてみると私が尋ねた全員が、ヌノの葉が冷たいからその葉で体を冷やすために使うと言っていた。掌かそれより少し大きいくらいの葉で暑い気候のサモアでも、そのヌノの葉は本当に冷たかった。私が知らないだけかもしれないが、少なくとも私の家庭で体の熱をとるために葉っぱは使わない。自分が植物を用いたことがない症状にもサモアでは利用できるものがあると分かった。外国人移住者が増加し、将来日本人以外の在宅看護をするかもしれないとき、対象者の母国ではどのように症状緩和していたのかその国特有のものを使っていたのかまで考えることができそうなきっかけになったと思う。
- サモアの訪問看護で看護師は、水道水よりも海水の方がきれいだというようなことを言っていた。これも自然を利用したもので実際にどのようなメリット・デメリットがあるかということも大切だが、十分な資源がない中でも代替物を利用して看護ができるということに私は興味を持てた。今自分はあらゆるモノに囲まれて生きているが、近い将来巨大地震が発生するといわれており、自分が看護職として活動する立場になったとき、限られた資源をどう生かすことができるのか、何をどう代用できそうなのかということこれから学んでみたいと考えてみたいと思った。
- 今回は初めての海外であり日本国内で外国人と接する機会があったものの、自分とは異なる言語・文化を持つ人たちにこれほど囲まれて生活したことも初めてだった。自分たちには英語で話してくれども、サモア人どうしではサモア語で話しているため、自分のことなのか、自分が原因で何か問題でもあったのかと気になることもあった。自分が日本で外国人に見せていた姿がこれだったのだなと気付いた。少数派の立場になったときの気持ちを忘れずに外国人と接していきたい。 (履修生B)

【実習で新たに身につけた力とその振り返り】

・自分が少しでも興味があるのならば、失敗を恐れずに挑戦してみることに

・グループメンバーと協力して一つのものを作り上げ、人前で発表する度胸がついた

・自己紹介やあいさつなど自分から言い始めるようになった

・現状に満足せずもっといいものにしようとするようになった

・看護師になるための必要最低限の授業だけでは得られない他国(特に発展途上国に関する)の情報・知識を学ぶことができた世界に目を向けて考えるようになった

・何かをしたいと思ったときいつも「これをやったらどれも中途半端に終わってしまうかもしれないから今はやめておいた方がいいかも」と考えてやらないことが多かった。けれど国際実習の参加を考えている時「これをやらないであきらめたらこの先ずっと後悔するかも」と思い、思い切って参加をしてみたら、数えきれないほどの経験、人との出会いそして新たな発見ができた。やらなければいけないことが沢山あるのはみんな同じだからその中で自分で時間を作り、やりたいことを成し遂げること、何を大切にしたいのかを考えることが大切だと学んだ。

・成果発表会のプレゼンテーションや国際看護学Ⅰでの国際協力の課題を行った時、自分の意見だけではなく相手の意見を取り入れながらお互い満足できるものを作り上げることができた。また、今までは緊張しすぎて発表が上手くいかないことが多かったけれど、現地では楽しむことで緊張しながらも良い発表ができると実感した。

・今までは間違っていたら嫌だなと思い、誰かが言うのを待ったり、任せることが多かった。けれど、実習中自己紹介などの挨拶をする時、自分が最初にやっていることがあり、自分自身に変化が生まれたのを感じた。

・日本文化の紹介プレゼンテーションに関して、初めに検討していた内容を別のものに変更しようと考えたけれどその時、別の課題に追われて変更するか迷っていた。けれど「サモアの人を楽しんで聞いてもらうには」と考えたとき目先の忙しさで変更をあきらめたら後になって後悔すると思い、思いきって変更したところ、結果的に現地でも変更後の内容が好評だった。

・授業を受ける前は、ほとんど日本の事情しか知らなかったけれど、授業後からは新聞を読むときも世界のことに注目するようになった。

(履修生 C)

【この実習の学びを今後、どのように活かそうか】

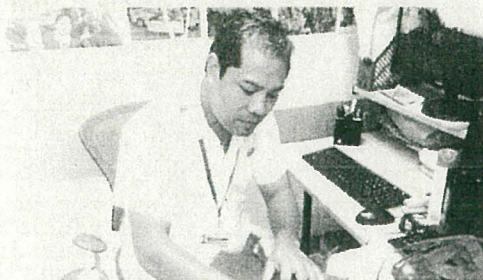
外国人と日本人との価値観の違いを理解するという点に関して今回の経験が生かしていけるようになると思う。一方的な視点だけでは考え方や捉え方も偏ってしまうが、一歩引いて様々な視点からの見方ができるとその地の生活の特徴や文化的な背景が見えてきて、そこからその人の考え方や価値観の理解へとつながるということを感じた。日本においても異なる文化を持つ外国人はたくさんいるし、将来的に協同することもあるかもしれない。そうなったときに相手の立場に立って相手の気持ちや行動をとらえて受け入れながらこちらの文化に適応していくということに生かしていきたいと思う。

また、今回は自分のできる限りの力で現地の人とコミュニケーションをなんとか成し遂げることができたが、現地でお世話になった人にお礼の言葉を伝えたくても「Thank you」しか言葉が出てこなくて本当はもっと伝えたいことがたくさんあるのに、という気持ちになった。一方でずらずらと英語をしゃべっている人々ともコミュニケーションをとる先生方の姿を見て、ごちない自分のコミュニケーションに対する力不足を感じ、若干英語を思うようにしゃべれない自分に対して悔しさもあった。もっと自分も英語をしゃべれたらな、と思った。引き続き英語に触れて学習を続けていつかまたサモアへ行ってお世話になった人たちに伝えなかった感謝の思いを自分の口から伝えたいと思うし余裕を持った会話のやり取りに挑戦したいと感じた。

自分の知らない、考えたこともない世界が広がり異文化を学ぶことが本当に楽しかった。この実習に挑戦していなかったらきっと得られなかったことがたくさんあったと思う。何かに勇気をもって本気で挑戦することで思いもよらない経験や知識を手に入れることができるということを感じた。私は失敗が怖いものだと思っていたが、この実習で失敗しないとわからないことがたくさんあるということを知った。失敗を恐れてチャンスを逃すのではなくて失敗をしてでも興味のあること気になることには挑戦していきたいと思った。(履修生 D)

元留学生ヘンリー氏、ノアさん、アモさんからの 学びと彼らの現在

Senior Nurse Specialist



Mr. Henry

ヘンリーさん(Henry Taylor)

私たちはヘンリーさんにサバイイ島を案内してもらったり、実習中にサモアの小学校や乳幼児のいる家庭へ連れて行ってもらい予防接種の様子を見学させてもらうことができました。さらにアイスクリームやココナッツジュース、ウム料理をごちそうになったりして渡航した私たちに心温かいたくさんのおもてなしをしてくれました。ヘンリーさんは交換留学生として本校へ来学していた経験や、琉球大学大学院を卒業していることもあり以前に日本で生活していた経験も豊富でした。そのため日本の文化や医療、私

たち日本人の性格にも幅広い理解があり、ヘンリーさん自身日本語も少し話すことができたので、日本とサモアを絡めた話がたくさんできました。笑顔が素敵で優しくて心の広い方でした。そんなヘンリーさんからの心温かいおもてなしや気遣いのもと、たくさんを経験でき、学びを得ることができました。ヘンリーさんは現在日本で学んだことや今までつちかってきた経験をサモアでの医療に生かし、サバイイ島のツアシビ病院で看護師として働いています。また、アメリカとの共同研究でリウマチ熱に関する研究も進めていてサモアの医療の発展に携わりご活躍されています。

ノアさん(Saunoa)アモさん(Aperaamo)

ノアさん(Noa)とアモさん(Amo)はH27年にサモアから本学へ実習に来た留学生です。二人とも忙しい中、時間をつくっていただいてマクドナルドでお昼を一緒に食べました。アモさんとノアさんは1年間のオリエンテーションプログラム中で、病院で臨地実習をしていました。ノアさんは私たちが渡航した時には既に赤ちゃんを産みお母さんとなっていました。

2人が本学へ来たとき2年生だった私たちは少ししか交流を持つことができなかったのですが、2人とも覚えていてくれて思い出話に花を咲かすことができました。二人は受け入れ年に一緒

に実習をした先輩たちのことも元気かどうか、気にしていました。また、先輩たちのメッセージをととても喜んでいて、元気な姿を見ることができました。アモさんとノアさんはたくさんのお土産を準備して笑顔で私たちを迎えてくれました。

Registered nurse



Noa

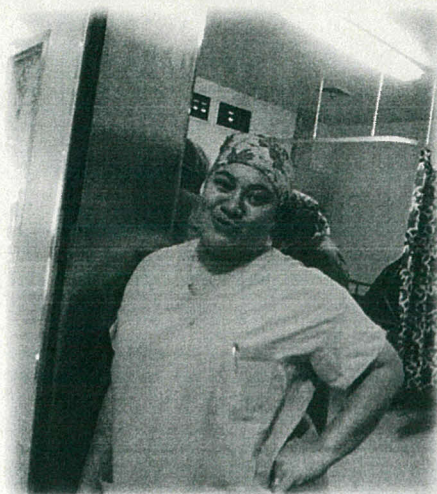


Amo

サモアの看護師として活躍しています

NCNでの思い出、忘れていません。今度は、私たちが待っています！！

国際看護実習の開始以来、13年間で7回の受入をしてきました。その後のNUS看護学科の留学生は今？！



私たち、新築されたサモア国立病院の手術室で毎日働いています！



宿舎で、男女を問わず仲良くなりすぎた？ヘンリー君、琉球大学大学院の学びを活かして今やサバイイ島の地域看護のリーダー的存在です
(2005：平成17年) ↓

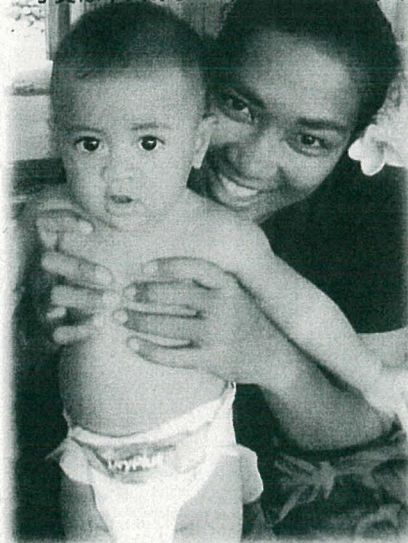


↑「Hi!girls!」が口癖でブラックサンダーとしまむら、すき家が大好きだったイサイアさんは、今や子育てとお仕事の両立中！
今回も学生にたくさんのお土産とココナッツジュースを持って宿に来てくれました。

(2011：平成23年)

*一緒に来学したマウアさんは今や世界の各地で《美の追求中》なので、今回は会えませんでした

*写真は本人のフェイスブックより！



↑ラウ・サモアの美しい歌を何度も歌ってくれたエメレさん、電話を何度もくれてサバイイ島から駆けつけたい！と言ってくれました。友人を介して学生にお土産を届けてくださった気持ち忘れません。

(2013：平成25年)

2009：平成21年来学したセイラさんは、ポウタシのご実家にて、いつも近くを通るとお邪魔しています。
おとなしかった印象のツアさんは、とっても頼もしくなって、そろそろゴールイン！？

↑「僕は《お坊ちやま》です！」という日本語を覚えさせられてしまっていたツイウリさん、サモアでは有名な一族のご出身でしたね。ギターがとても上手！でした。
今度は皆がサモアに来るのを楽しみにしています！

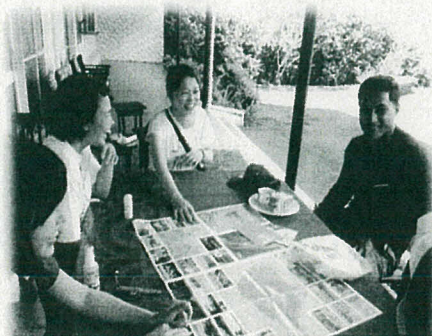
(2013：平成25年)



帰国してからあっという間にお母さんになっていたノアさん。

2015年の報告書を渡したら、周りの音がまったく聞こえていないくらい集中して嬉しそうにずーっと見てくれました。きっとあのときのNCNメンバーを、思い出して会いたかったんだよね。

← (2015：平成27年)



ヘンリー君には負けてない！↑来日年に異例の「訪室禁止令」を出させた《伝説の男》「アモさん」インターン・シップ中なのに何度も駆けつけてくれました。また会いましょう！(2015：平成27年)



鈴風祭 報告会

日時 9月10日(土) 1回目 12:00から

2回目 14:00から

内容 国際看護実習で学んだことについての発表・サモアの品々展示

場所 中講義室1



当日は約30人の聴衆の中、発表を行いました。一般の方々だけではなく、先生方や卒業生で国際看護実習履修生の方々も来てくださいました。内容は実習生各々が興味を持ったテーマ「家族計画」「母乳」「訪問看護」「予防接種」について発表しました。

家族計画については、これの一つである避妊方法としてサモアでは注射法、日本ではコンドームのように選択される方法が異なることを発表しました。

母乳について、サモアでは国を挙げて母乳育児を推進している活動があることを紹介しました。

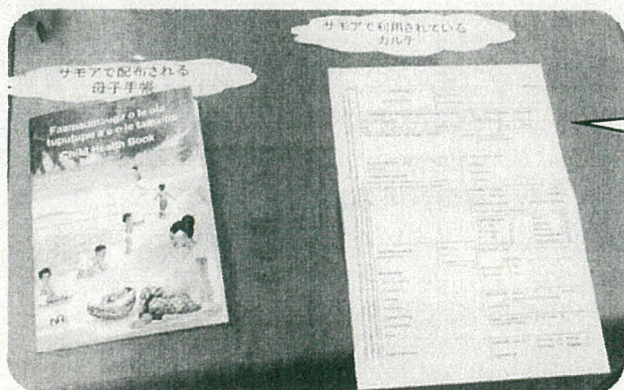
訪問看護については、看護師が患者に行っていること、そこで使われた資源について発表しました。

予防接種について、サモアにおけるワクチンの管理体制や予防接種の実施状況を日本との比較とともに紹介しました。

来場者の方からは、「とてもいい経験になったね」、「たくさんのことを学んできたんですね」と声をかけていただきました。改めて、たくさんの方に支えられ、実習を終えることができたと感じました。



好評の展示！！
ここで写真を撮れば
気分はサモア☆



カルテはサモア語ではなく、
全て英語。
首都アピヤや他国から医師
が来るため誰でも理解できる
ように英語なんだとか。

これらの品々は、サモアの方々に頂いたもの。
うちわやネックレス、かわいらしいケースもあります。



鈴風祭：国際看護実習報告会に来て下さった既卒実習生の皆さんからの感想

サモアの医療を実際に現地で見えた学生さんが感じた視点から、サモアの人々の暮らしや、そこに根付く医療と日本の医療の違い、サモアの医療における今後の課題などを知ることができ、とても勉強になりました。

今後もこの実習を継続して頂きたいと思うと同時に、卒業生や国際看護の道に進んだ先輩なども交えて、さらに学びを深めたり、新たな発見を共有していけたらと思います。

(2013 年度 (受入年) 履修生 伊東 有紗子

浜松医科大学大学院修士課程看護学部助産学分野助産師養成コース修了 2017 年 4 月～済生会宇都宮病院)

受け入れ年とは違い、サモアと日本の違いをより看護の視点で見えて、もっと知りたくなりました。短期間で現地でしか知り得ないことをたくさん吸収してそれを発表できていて、とてもすごかったです。ありがとうございました。

(2015 年度 (受入年) 履修生 青木優果 2017 年 4 月～松代病院)

渡航前の 7 月に行われた英語プレゼンテーション予演会も見学させていただきました。一生懸命なのと同時に緊張した様子がとても伝わってきました。帰国後の鈴風祭ではラバラバ（現地の服）を装い、実習成果を堂々と発表している姿をみて、個々の課題を達成してきたのだらうと感じました。今回の実習では、みなさんはエセタ先生の仲間と言う役割も果たしてくれました。まだ、領域実習が始まっていない中で、国際実習にチャレンジしてやり遂げたことは、これからの糧になると思います。来年度は受け入れ年になるので先輩として応援して欲しいなと思います。

(2011 年度 (受入年) 履修生 伊藤 (旧：玉井) 佑季 本学発達看護学講座成人看護学分野)

テーマを決め、サモアでの学びを発表していただくことで、発展途上国ならではの課題について知ることができました。特に family planning については、私も国際看護にて取り組んだ課題であり、男性主体の避妊が当たり前ではない日本との違いに驚くとともに、家族計画が女性やこども健康や貧困政策の上で重要であると改めて感じました。

(2015 年度 (渡航年) 履修生 西澤 愛 長野県立子ども病院)

* 西澤さんには、同じく履修した年の藤田ゆららさんとエセタ先生のメッセージを寄せに来学いただきました。

サモア実習の報告会を見させて頂いて、まず生徒の皆さんの生き生きとしたエネルギーの凄さに感動しました。サモアでの実習が充実したものだったと言う事が皆さんの話をする表情でとてもよく分かりました。私は発表会の次の日に行ったのですが、パワーポイントの説明もしっかりとして頂き、どんな実習をして何に困り、何に感動したのかとても分かりやすかったです。私もそうだったなあと思った時の事を思い出しながら報告会をみさせて頂きました。個人的には事前に少し関わらせて頂いた皆さんが事前に準備されていた日本の紹介の発表が上手く出来たと言うのを聞いて嬉しく思いました。今回のこの貴重な実習が是非これからの皆さんの視野を広げる第一歩になったらと思います。報告会本当にお疲れ様でした。

(2004 年度 (渡航年) 履修生 竹内めぐみ 長野市)

* 竹内さんには、渡航直前の《英語プレゼンテーション予演会》とその後の交流会にも参加いただきました。

* ほかにも 2004 年度 (渡航年) 履修生の坂口 (旧：小澤) 杏奈さん、藤岡好美さん、2013 年度 (受入年) 履修生の宮澤江莉さんからは、来日年を中心に先輩としてご支援のお申し出をいただけてきました。いつも本当にありがとうございます。先輩方の思い、確かに伝わっています。



2016年7月12日 実習での渡航前に「エセタ先生の功績に感謝する会」を開催しました



2016年5月7日に、本学がサモアとの交流協定に基づき、教員や学生の交流事業が開始された当初から、両校の絆の要であったサモア国立大学（NUS : National University of Samoa）応用科学部長のエセタ・ホープ先生が闘病の末、永眠されました。

本務の学部長のみならず、サモアの看護界をリードされてきた先生を喪失したサモアの衝撃は大きく、急逝の連絡をすぐには信じがたい私たちも、検索すると次々に出てくる新聞やネットのニュースに、その事実を受け入れざるをえませんでした。新旧カリキュラムの移行措置で3年生と4年生の6名がサモアを訪ねた2014年度には、サバイイ島の御親戚宅をホームステイ先として、自家用車で案内下り、そのまま学生と寝起きを共にしたり、何度も差し入れを下さった先生。学生を傍に手招きして日本で覚えた折り紙を披露して下さった先生。気さくで気取らない、そしていつも私たちに配慮を忘れないエセタ先生と一緒に過ごせた時間は、あまりにも短いものでした。その実習でエセタ先生は「双方の交流からなる国際看護実習の英語版の成果報告書を発行しましょう」「近い将来、この実習をNUSが協定実習をしているカナダと日本の3国間での学生の学習機会に発展させましょう」とも語っていました。翌年の2015年に本学に留学したアモさんとノアさんが帰国した後も、すぐに「大学内で支援金を獲得するから今度は10人位の学生を日本に送りたいけれど、どうか?」ともちかけられ、それに対するお返事へのエセタ先生からのお返事を確認する間もなく、NUSの先生から「エセタ先生が体調を崩した」とのご連絡をいただき、案じていたところでした。すぐにお見舞いのメールやフェイスブックへの書き込みをしましたが、【開封】して下さったことが確認できるのみでした。

ご遺族によれば、日本訪問の直後はいつも決まって「やせないとね!」「私は健康志向にするから小盛にして」と言うのが口癖だったそうです。そういえば、サモアでの歓迎夕食会のときも、「日本はこうなのよね?」「私は日本語ができるのよ」とわかる限りの日本語を駆使され、学生たちの緊張を懸命に解きほぐそうとして下さっていました。私がエセタ先生の研究室を初めて訪ねたとき、その笑顔にどんなに救われたかも鮮やかに思い出しました。

本学IRCメンバー有志が企画した「エセタ先生の功績に感謝する会」には、学内教職員、その夏に渡航する実習生4名のほかに、既卒の国際看護実習履修生も駆けつけ参加しました。渡航年には現地でおもてなし下さり、留学生の受入年には選りすぐりの学生2名を送って下さったエセタ先生、先生あってこそその安全で実りある国際看護実習が続いてきたこと、その絆が今も続いていることに心から感謝を申し上げたいと思います。この実習の前任者である田代麻理江先生によれば「エセタ先生はきっとまた天国でも私たちが快適に過ごせるようなファレ（サモアの伝統的な壁のない家屋）を準備して待っていて下さるでしょう」とのこと。あまりにも大きな存在を失った私たちに希望が生まれるとても素敵なメッセージ!エセタ先生、いつかお会いできるまで、私たちは自分たちができることを精一杯させていただきます。

（国際看護実習 科目担当 宮越幸代）

参加した卒業生からのメッセージ

勤務の都合により、中途から参加させていただきました。私は受入年の履修生でしたが、改めて本学とNUSの絆、エセタ先生の功績を知るきっかけとなりました。また2つの大学間の事業に多くの方々の関わりがあって、その恩恵を受ける私たち卒業生が今も増えつつあることを実感しました。今後もできる形で支援をさせていただきたいと思います。

＜健和会病院 宮澤奈津美（2009年度卒業）＞

エセタ・ホープ先生(前サモア国立大学看護学部長)を偲んで

本学が交流協定を結んでいるサモア国立大学の前看護学部長エセタ・ホープ先生が昨年5月7日にご逝去されました。先生は、サモアと本学との交流の基盤づくりにご尽力くださいました。本学においても7月12日に学生、教職員が集まり、エセタ先生への感謝の会を行いました。今回、エセタ先生を偲びメッセージを寄せていただきました。謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

さようならエセタ先生

サモア国立大学(NUS)応用科学部長エセタ・ホープ先生の5月7日のご逝去から半年になりますが、いまだに信じられない思いです。NUSとの交流に携わった私たちにとって、あまりにも大きな存在との早すぎる別れでした。2001年の交流開始以来、常に新しい知識や考え方に強い興味を持ち、目を輝かせて議論されました。2002年に始まった子どもの生活習慣に関する共同研究でも中心的な役割を果たし、国際看護実習の本学学生も毎回暖かく気遣ってくださいました。

当初は若手の講師でしたが、能力と努力を買われて要職を歴任し、応用科学部長になってからも、“心は看護師たちと共に”をモットーに、事務局長としてサモア看護師協会の運営に尽くされました。常に真っ正直に発言し、それ以上のことを実現してこられました。本学の大学院への留学の希望が本学の言語的障壁に阻まれ、お互いに素晴らしい刺激を与え合う機会が失われたのは何とも残念でしたが、また会う機会は何度でもあると信じていました。実際、また一緒に座って仕事がしたいと書いてくださった先生が3か月後に旅立たれるとは思ひもよりませんでした。

エセタ先生、あなたの知性は最期まで病に負けなかったのですね。先に旅立ったJerryさんも支え続けてくれたのでしょうか。今でもあなたの人懐っこい笑顔が臉に浮かびます。ご家族や友人や同僚や仲間の看護師にも同じように微笑みかけておられるのでしょうか。

さようならエセタ先生、いつかまた会えるときまで。それまで、あなたが遺してくださった大切なものを皆と一緒に守り育てます。 社会・経済学分野特任教授 多賀谷 昭



NUS学長への献花・写真の寄贈

エセタ先生のご冥福をお祈りします

2001年に大学間協定が結ばれ、サモアと日本の子どものライフスタイルの比較研究で、エセタ先生と一緒に仕事をさせて頂きました。気さくで、温かく、仕事熱心で、新しいことに意欲的に取り組む素敵な方でした。

何度か日本に来られ本学との交流の要として尽力され、NUSの重要な地位に昇進され、これからという時に、とても残念です。エセタ先生のご冥福を心からお祈りするとともに、NUSとNCNとの交流が今後も進んでいくように願っています。

小児看護学分野教授 内田 雅代

追悼 Eseta Hope先生

2005年4月。初めて訪れたサモアでの緊張感を一掃するような、とびきりの笑顔で迎えてくれた。大きな身体に南国の華やかなプレタシを纏い、左耳にはブルメリア。「夜遊びする時には(独身者のように)右耳に挿すのよ」と悪戯っぽく笑った。

その後は互いにサモアと日本を行き来しつつ、何度も研究の話をした。駒ヶ根では大好きなソースカツ丼を頬張り、季節外れの大雪に大喜びしてはしゃいでいた。

突然の訃報は簡単には受け入れ難いものであった。程無くしてFulisia先生も旅立たれたとのこと。今ごろ天国で議論でもしているのだろうか…と思いを募らせている。

地域・在宅看護学分野講師 御子柴 裕子


サモア国立大学と本学の絆であったEseta Hope学部長への感謝

本学はサモア国立大学(NUS)看護学科との教員および学生間の交流事業を実施しています。そのNUSと本学の重要な架け橋であったEseta Hope学部長が5月に永眠されました。本学は7月12日に学内で先生への感謝の会を開催し、その後の国際看護実習(渡航年)では先生のご遺影と献花をNUSにご遺族にお届けしました。留学生の来日年には明晰な学生を何代も送って下さり、渡航年には公私の隔てなくおもてなしを下さった先生。これからは豪華に飾られたご自宅のお庭でご家族を見守りつつ、互いの国を行き来して学ぶ私たちを見守ってくださることでしょう。 基礎看護学分野准教授 宮越 幸代



たくさんのご親族に囲まれた墓参

サモアは私にとって初めての海外です。
渡航前から海やサモアの生物、植物など、
実習以外のこともたくさん楽しみにしていました。
これらの気になっていたことは、実際にサモア人の
生活や医療に関心しているものが多くありました。サモアで
実習している間は見たものや聞いたことをそのお話をし入れ
帰国しては、たまたまの出来事や、その地域の実習が、
様々な分野での実習とする度に、サモアの医療等との
違いを感じることが多いです。
サモアの経験やサモアで出会った人々の思い出は
今でも私の大切なことです。熊谷 里奈



基礎看護学講座
田村 由紀子



平成28年度 国際看護実習報告

サモアは自然が豊かで葉で編んだ籠やマット、家などの建物にも植物が多く使われています。玄関付近にサンゴの欠片のようなものが敷き詰められている家もありました。私は、サモアの看護師が在宅看護で海水を使っていたことが印象的でした。サモア人は、自然を生活など様々な場面に用いる知識や技術を多く持っている人たちだと感じました。

熊谷 里奈さん(看護学部3年生)

初めは、この実習を乗り越えることができるのか不安な気持ちもありました。しかし、実習を終えた今、サモアで経験したことや出会った人たちとの思い出が強く印象に残っていて、私の頑張る原動力となっています。また、現地の看護師さん達は私たちの質問に真剣に答えてくださり、沢山の学びを得ることが出来ました。

塚田 佳奈子さん(看護学部3年生)

サモアでの生活は見るもの聞くもの全てが新鮮で、とても魅力的でした。国際看護実習で学んだ多くの事は私にとって大切な宝物です。サモアの人々はとても親切で、手厚く私たちを歓迎して下さり、先輩や先生方がつくり上げてきたNUSとNCNの強い絆を感じる実習でもありました。支援して下さった皆様には感謝の気持ちで一杯です。

丸谷 由紀さん(看護学部3年生)

7月31日から8月14日までの2週間、サモアで国際看護実習をしました。現地では2つの病院で実習をさせていただくことができました。途上国のサモアと先進国の日本人とで提供される医療の違いや、それぞれの国における文化的背景の違いから、サモア人と日本人とで抱える疾患や医療に対する価値観の違いを学ぶことができました。また、それを受け入れて異文化に溶け込むことの難しさを経験することができた実習となりました。このような学びや経験ができたのは、現地や日本からの多くの支えがあったからだと思っています。ありがとうございました。この学びや経験を今後発信していけたらいいなと思っています。

谷口 夏美さん(看護学部3年生)



*Opportunity only
knocks once...*



NUSと本学の大学間協定に基づく学生交流に貢献したEseta前学部長との記念写真と献花をNUS学長 Le'apai Tu'ua氏にお届けしました。



Eseta Hope前学部長のご遺族宅を訪問し、墓前に有志による花額と教職員・在校生・卒業生からのメッセージなどをお供えし、思い出を語り合いました。



現地で、7月には前々学部長の Fulisia Aiavao先生が旅立たれたことを知り、お花を持って墓参致しました。実習の宿舎近くにお休みの先生、これからもお邪魔致します。



学内で英語プレゼン予演会をした度胸があれば、本番だって大丈夫！成果報告会をNUS学内のBig Fale（サモアのTraditional house）で行ったのは初めて。



成果報告会が終わっての交流。世界中のどこでも看護学生は忙しい！もう少し一緒に過ごせる時間がほしかったね。「まだ帰りたくない」というNCN学生、今度はホームステイに挑戦してみては？



今年はサモアでNCNが初めて挑戦することが多かった、やるべきこともきちんとこなし、やりたいことも残らずやった、ね。サモア文化体験村では大人気のGirlsでした。



2015年来学 of Noaさんは「お母さん」になっていました。現地でお渡しした実習報告書をじっくり見入って懐かしんでくださいました。お土産もいただきまして、ありがとうございました。



新学部長（自称James Dean）は琉球大学大学院で学んだ経験があり、日本語でのご挨拶を披露。帰国直前の昼食会へのご招待をいただきました。



送迎はいつも夜間にもかかわらず、遠方の空港までNUSの先生方、学生の皆さんが来てくださいます。また行かなくちゃ！ですよ。その前に、来年はまた素敵なNUS留学生の来日をお待ちしています。

受験生の方へ
FOR APPLICANTS

学内向けサービス
FOR STUDENTS

保護者の方へ
FOR PARENTS

卒業生の方へ
FOR ALUMNUS

地域の方へ
FOR REGION

社会人の方へ
FOR SOCIETY

キャンパスライフ >> 年間行事の様子



トップページ >> キャンパスライフ >> 年間行事の様子

長野県看護大学
「平成28年度国際看護実習」

2016/7/31-8/14

本学では、協定校であるサモア国立大学と国際看護実習を実施しています。



到着してすぐに準備したのは、サモアの正装。花飾りも「未婚なら右？左？」



2015年度に来学したAmoさん。「髪切ってから行くから待って！」と予定の2時間遅れで再会。It's the Samoan Time.



翌日からすぐに地方に移動。海を見渡す素晴らしい景色の宿舎を確保いただきました。



10時から16時まで全く休憩もなく、地方病院の看護師は医療器材を持って訪問看護に廻ります。



毎回お世話になるLima看護師長さん、遅い昼食後、すぐにカンファレンスで学生のフィードバックや質問に長時間対応下さいました。



週末にかけてSavaii島に移動。自給自足の島で「今夜のカメ捕ったどー！」の瞬間。



日曜礼拝の朝は、2005年来学のHenry君のお迎えで始まりました。



Tuasivi病院では、看護研究の発表、米国との共同研究など先進的な取り組みが進んでいました。



前日、UMU料理を振る舞ってくださった親子の看護師・助産師さん。ランチ懇親会で学生が申し入れておいた目的に沿った内容を提供くださいました。

学生短期交換留学「国際看護実習」の概要



平成 29 年 3 月

長野県看護大学 基礎看護学講座 科目担当 宮越幸代

1. 実施の経緯

- 1998 年 (平成 10 年) 長野県看護大学 Anne Davis 教授 (現在, 名誉教授) が友人を訪ね, 南大洋州サモア独立国に学生有志とともに渡航。学生たちが医師不足の中で人々の健康を支えるサモアの看護師の活躍ぶりを見て, 看護職の可能性の大きさを知る。また, 同時に訪ねたサモア国立大学でも, 日本との交流を期待するタイミングであった。
- 2001 年 (平成 13 年) 7 月 17 日 両校間の相互協力協定に基づき, 双方の学長が「サモア国立大学と長野県看護大学の学生交流事業に関する合意覚書」を交換する。
- 2004 年 (平成 16 年) 8 月 12 日～28 日 初回の学生短期交換留学「国際看護実習」(4 年次・総合実習科目) として, サモア国に本学より 3 名の学生が渡航し, 2 週間の実習を行う。その後, 隔年度ごとに双方の大学に短期留学する形で継続中 (偶数年は渡航し, 奇数年は留学生を受け入れる) である。
- 2014 年 (平成 26 年) 新カリキュラムへの移行に伴い, 学部 3 学年次・編入 2 学年次の選択科目となる。
- 2017 年 (平成 29 年) 編入制度廃止に伴い, 学部 3 年次のみの選択科目となる。

2. 実習目標と内容

実習期間: 留学先現地での 2 週間 (90 時間・2 単位) を原則とする。

<p>サモア渡航年 (偶数年)</p> <p>本学より毎回 4 名 以内の学生が留学</p>	<p>開発途上国の暮らしと保健医療の現状を理解するとともに, サモア国立大学の学生との共同学習や現地看護者との協働を通して, サモアと日本の看護や保健医療の違いを対比し考察することで, 双方の看護の特徴や看護の原則の普遍性を理解し, 異文化的背景を持つ対象への看護や看護の国際的協働の基本となる力を養う。</p> <p>内容の例: サモア国立大学病院, 地域保健サービス局の視察, 地域病院, 地域の看護師が運営する病院での実習および訪問看護実習, 小学校等で看護職が担当する学校保健業務の視察および一部参加, 双方の文化交流会, 大学の授業視察および一部行事への参加, 実習成果報告会 など</p>
<p>本学受入年 (奇数年)</p> <p>サモア国立大学より 毎回男女各 1 名の 合計 2 名が留学</p>	<p>サモア国立大学の学生と共同で日本の対象者を受け持ち, 情報収集と問題点の抽出, ケアの実践を共同で行い, 互いが持つ文化や社会的背景が対象理解や看護実践にもたらす影響を比較・考察する。さらに異文化的背景を持つ学生が異なる文化の国に滞在する際の対応を通して, 彼らのニーズを理解すると同時に, 自国の特徴的な文化・習慣に対する理解と表現力を高める。</p> <p>内容の例: 長野県内外の医療施設の視察 (例: 長野県立こども病院, 松本協立病院, 昭和伊南総合病院など), 老人保健施設での利用者受け持ち実習 (看護問題の抽出まで), 乳児検診, 母親教室, 国際協力機構 JICA 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所, 高齢者デイケアセンターなどの視察・懇談会, 大学の授業視察および一部行事への参加, 実習成果報告会, 留学生のホームステイなど</p>

*これまでの実績を総合的に整理したものであり, 実際には年度ごとに学生の要請等に沿って内容を決定している。

3. 実績: 2004 年度の開始以来, 2016 年度で 13 年の実績を重ねる。

実習生数: 合計 57 名

内訳: 来学した NUS 留学生 12 名, NUS 留学生を受け入れた本学学生 16 名, 渡航した本学学生 27 名

実習生が著した資料: 実習で学んだ内容や成果について, 2005 年度は双方の学生が国際学会で共同発表した。

2005 年度と 2010 年度には, 本学学生が実習の内容や成果を本学紀要に執筆した (下記 1) 2) 参照)。

- 1) 小澤杏奈, 藤岡好美, 結城美穂, 田代麻里江: 海外実習において看護学生が学んだサモアの文化と看護の特徴 (資料), 長野県看護大学紀要第 7 巻, 2005 年 4 月。

- 2) 菊池郁希, 竹村麻紀, 宮澤奈津美, 宮越幸代: サモア国立大学留学生を迎えての 2009 年度国際看護実習一学生の視点で考えた実習の成果一 (資料), 長野県看護大学紀要第 13 巻, 2011 年 3 月。

実習報告書: 従来, 「学報」での報告を続けてきたが, 2014 年度より本実習の報告書を作成・学外実習先, みらい基金運営委員, 学内外の実習関係者, 既卒の本実習履修生, 有志に配布している。

(当該年度の 3 月に 70 部程度を作成)

「長野県看護大学とサモア国立大学との相互協力に関する協定書」に基づく

2016（平成 28）年度「学生交流事業」および「国際看護実習」は、

本学のみらい基金およびサモア国立大学学生委員会

による支援のもとに実施されました。

実施にあたり、準備から終了まで広くご理解とお力添えをいただきました

学内外の皆様に心より感謝申し上げます。

長野県看護大学とサモア国立大学との
相互協力に関する協定書に基づく
2016（平成 28）年度
「学生交流事業」および「国際看護実習」
報告書

長野県看護大学 基礎看護学講座 国際看護実習
発行：「国際看護実習」科目担当 宮越幸代 田村かおり
発行日：2017（平成 29）年 3 月 31 日

引用・転載を希望される場合は、お手数ですがご一報ください。

miyakoshi-sachiyo@nagano-nurs.ac.jp

〒399-4117 長野県駒ヶ根市 1694 番地

長野県看護大学

電話（代）0265-81-5100